

## は し が き

この『セミナー年報』は本研究所が開催する「産業セミナー」「公開講座」の講演などについて、広く多数の方々にお読みいただくために毎年刊行しており、今回が25冊目になります。「産業セミナー」は1962年に始められ、以来大阪商工会議所、大阪市工業会連合会、大阪市産業経営協会、りそな銀行からのご後援を得て継続してまいりました。1980年より開始しました「公開講座」とあわせて、社会とともに歩む本研究所の活動の縁として多くの方々に参加いただいております。そして2013年は「産業セミナー」「公開講座」ともに200回目を迎えるという節目の年になりました。日頃から研究所をご支援いただいている皆様、公開行事にご参加いただいた皆様、また、お忙しい中を講演いただいた講師の皆様にあつく御礼申し上げます。

その節目となる第200回記念産業セミナーは東アジア経済・産業研究班の企画により5月に開催されました。佐々木信彰研究員による「習李政権 中国経済の課題」は、習国家主席と李総理が担うようになった現在の中国の課題について、ひとつ前の胡主席・温総理の時代からの経緯に基づいて論じたものです。次に水野一郎研究員（本研究所・前所長）の「反日暴動後の日系企業の課題と展望」は、中国滞在中にご自身が遭遇された反日暴動の様子もまじえながら、今後の中国経済との付き合い方はどうすべきかについて述べておられます。また、この記念セミナーには大貫雅晴当研究所顧問をお招きし、「日中ビジネス紛争の解決」と題してお話いただきました。御寄稿いただいた論考では、国際商事仲裁制度についての説明のあとに、中国の制度の問題点について、日本企業が関連した例もまじえながら貴重な指摘がなされています。

第201回は財政・社会保障制度研究班の企画により6月に開催いたしました。佐藤雅代研究班主幹による「救急の現況と制度としての持続可能性」では、経済学の考え方から、社会保障をどうとらえるか、そして日本の医療制度、さらには地方自治体と医療制度という順番に、大きなテーマから具体的なテーマに向けて平易に解説しています。そのうえで、とくに救急医療という、私たちが身近に感じていながら制度としてはあまりくわしく理解していない領域と社会保障制度との関連について新しい問題提起がされています。林宏昭研究員による「税と格差社会」では、「一億総中流化」などの社会像が崩れた現代日本社会に関連して、日本経済や財政と税制の関係について多くの図表とともに明快に語っています。この問題は通俗的な比喻で煽情的に語られるケースもあるように見受けられますが、本稿は経済学の分析をしっかりとおまえた信頼できる解説としてぜひご一読ください。

続く第202回は地域社会と情報環境研究班の企画により10月に開催されました。深井麗雄研

究員「北海道から見えるメディアのあり方」は北海道のメディア関連会社（テレビ1社・新聞1社）をとりあげ、メディア経営の持続的運営への寄与という面から地域メディアの可能性を論じたユニークな論考です。現状調査を踏まえながら、地方のジャーナリズムへの関心にも、メディア企業経営への関心のどちらにも答える興味深い内容です。吉岡至研究班主幹による「変容する情報環境と地域メディアの役割」では、現在生じている情報環境の変化によってメディア間の棲み分けが明確でなくなった状況における地域メディアの位置づけを、地域ポータルサイトやコミュニティFM、ケーブルテレビの3つの事例紹介をまじえながら検討しています。

第203回は子どもの安全とリスク・コミュニケーション研究班の企画により11月に開催されました。尾久裕紀委嘱研究員による「親と子のメンタルヘルス」では、親子の心の健康について、子供の発達と関連づけながら解説されています。親子の心の健康に及ぼす親の健康状態の重要性と、その保全のためのリスクマネジメントの概略が示されています。亀井克之研究班主幹による「子どもの安全とリスク・コミュニケーション」は、2期4年間にわたる研究班の活動のまとめとして、子どもが安全に暮らせる社会を実現するための提言やツールの開発にふれ、リスク・コミュニケーションのカード・ゲームの子ども版の開発について紹介されています。

今年度最後の産業セミナーである第204回は大阪の社会労働運動と政治経済研究班の企画により12月に開催されました。当日の谷合佳代子委嘱研究員による「ナマの資料から見る大阪の社会労働運動史」では、館長を務めておいでの大阪産業労働資料館（エル・ライブラリー）が所蔵される貴重なナマの資料に触れながら興味深いお話が聞けましたが、この年報に収録された写真等からもその片鱗をうかがうことができます。高作正博研究班主幹による「大阪の社会労働運動と裁判」は、社会労働運動にかかわる具体的な裁判事例の分析をもとに、運動体が裁判を利用する傾向から、公権力が民意や裁判を利用する傾向へと移りつつある現状について検討しています。

「公開講座」は3回開催いたしました。第199回は中国社会科学院世界経済・政治研究所から陳虹先生をお招きし、「中国における債権信用の格付け」についてご講演いただきました。本研究所在重点をおいている東アジアの経済・産業に関わる最新の論考として意義の大きいお話になりました。第200回記念講座では経済史家の鈴木浩三先生より「江戸商人の経営と戦略」について講演をいただきました。遅れた封建時代として受け取られる江戸時代のなかに、実は当時としての市場メカニズムが機能する資本主義的な側面が数多く見出せることを明らかにした、節目にふさわしい知的な興奮をかりたてられる論考です。今年度の公開講座の最後を飾る第201回では一橋大学よりお招きした尾畑裕先生より「アメーバ経営と原価計算」について講演いただきました。通常は原価計算について言及されることがない京セラの「アメーバ経営」につい

て、解釈をかえた「原価計算」との関連を見出すことにより、管理会計・原価計算のあるべき姿を論じるという、これもまた新しい視角からの発見に富む論考です。

以上、本号も非常に多彩で興味深い内容になりましたこと、執筆者の皆様にあつく御礼申し上げます。なお、本研究所の研究成果の公表としてはこの『セミナー年報』のほかにも、『研究双書』『調査と資料』を公刊しています。また、本研究所の活動についてはウェブサイト (<http://www.kansai-u.ac.jp/Keiseiken/index.htm>) でも紹介しており、過年度の出版物の論文もご覧いただけます。この『セミナー年報』とともに、本研究所の活動成果から何らかの知的貢献を皆様が受け止めていただければ幸甚に存じます。

今後とも、本研究所に対して変わらぬご支援をお願い申し上げます。

2014年3月

関西大学経済・政治研究所

所長 高瀬 武典